

公立大学法人大阪

令和5事業年度の業務実績に関する評価結果

令和6年8月

大阪府市公立大学法人大阪評価委員会

目 次

1 公立大学法人大阪の年度評価の考え方	1 ページ
2 全体評価	3 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
<全体評価にあたって考慮した事項>	
① 公立大学法人大阪の基本的な目標	
② 令和5事業年度における特筆すべき取組	
(2) 評価にあたっての意見、指摘等	
3 大項目評価	
3-1 「大阪公立大学」に関する大項目評価	7 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
(2) 評価にあたっての意見、指摘等	
3-2 「大阪公立大学工業高等専門学校」に関する大項目評価	9 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
(2) 評価にあたっての意見、指摘等	
3-3 「大阪府立大学及び大阪市立大学」に関する大項目評価	10 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
(2) 評価にあたっての意見、指摘等	
3-4 「業務運営の改善及び効率化」に関する大項目評価	11 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
(2) 評価にあたっての意見、指摘等	
3-5 「財務内容の改善」に関する大項目評価	12 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
(2) 評価にあたっての意見、指摘等	
3-6 「自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供」に関する大項目評価	13 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
(2) 評価にあたっての意見、指摘等	
3-7 「その他業務運営に関する重要目標」に関する大項目評価	14 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
(2) 評価にあたっての意見、指摘等	

1 公立大学法人大阪の年度評価の考え方

○ 年度評価の考え方

本評価委員会においては、「公立大学法人大阪 各年度終了時における業務実績評価実施要領」に基づき、次のとおり、令和5事業年度の業務実績に関する評価を行った。

<評価の基本方針>

評価にあたっては、中期目標の達成に向け、中期計画の進行状況の検証、法人の業務運営状況をわかりやすく社会に示す、法人が重点的に取り組んでいる事項にかかわる取組の考慮、法人の継続的な質的向上を促進すること、の4点を考慮した。

<評価の方法>

評価は「項目別評価」と「全体評価」により行う。

「項目別評価」では、法人による自己評価・自己点検の結果をもとに、業務実績に関する事実確認、法人からのヒアリング等を通じて、年度計画の進捗状況を確認するとともに、法人の自己評価・自己点検の妥当性の検証と評価を行う。また、「全体評価」では、「項目別評価」の結果等を踏まえつつ、中期計画の進捗状況全体について総合的に評価を行う。

(項目別評価の具体的方法)

項目別評価は、①法人による小項目ごとの自己評価、②評価委員会による小項目評価、③評価委員会による大項目評価の手順で行う。

① 法人小項目自己評価

実績報告書の小項目ごとにI～Vの5段階で自己評価を行う。

② 委員会小項目評価

年度計画の小項目ごとに、法人の記入した自己評価の妥当性を検証し、I～Vの5段階による評価を行う。

③ 委員会大項目評価

評価委員会における小項目評価の結果、取組実績、法人の自己評価等を総合的に勘案し、大項目ごとに、中期計画の進捗状況について、S・A～Dの5段階による評価を行う。

(全体評価の具体的方法)

評価委員会において、項目別評価の結果を踏まえ、中期計画の進行状況について、特筆すべき点や課題がある点を中心に、簡潔な文章により総合的に評価を行う。

項目別評価の基準

大項目評価

- S 中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある
(評価委員会が特に認める場合)
- A 中期計画の達成に向けて計画どおり進捗している
(すべてⅤ～Ⅲ)
- B 中期計画の達成に向けておおむね計画どおり進捗している
(Ⅴ～Ⅲの割合が9割以上)
- C 中期計画の達成に向けてはやや遅れている
(Ⅴ～Ⅲの割合が9割未満)
- D 中期計画の達成のためには重大な改善事項がある
(評価委員会が特に認める場合)

※ () の判断基準は目安であり、法人を取り巻く諸事情を勘案して総合的に判断する。

小項目評価

- Ⅴ 年度計画を大幅に上回って実施している
 - ・顕著な実績又は特に優れた成果が認められる場合
- Ⅳ 年度計画を上回って実施している
 - ・達成度が計画を上回る取組、実績又は成果を挙げた場合
- Ⅲ 年度計画を順調に実施している
 - ・達成度が計画どおりと認められる場合
- Ⅱ 年度計画を十分に実施できていない
 - ・達成度がやや下回るもののおおむね計画どおりと認められる場合
- Ⅰ 年度計画を大幅に下回っている
 - ・達成度が計画より大幅に下回る場合

2 全体評価

(1) 評価結果と判断理由

- 令和5事業年度の業務実績に関する評価については、7ページ以降に示すように、「大阪公立大学に関する目標」、「大阪公立大学工業高等専門学校に関する目標」、「大阪府立大学及び大阪市立大学に関する目標」、「業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「財務内容の改善に関する目標」、「自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標」及び「その他業務運営に関する重要目標」の7つの大項目について、5つがA評価（「計画どおり」進捗している）、2つがB評価（「おおむね計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。
- 以上の大項目評価の結果に加え、公立大学法人大阪の基本的な目標、令和5事業年度の取組等を総合的に評価し、令和5事業年度の業務実績については、「全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおり進捗している」とした。
- なお、法人の取組を俯瞰して、本評価委員会として、次の意見を付記する。
 大学の統合以降、着実に大学運営に取り組むなど、全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおり進捗していることは評価できる。
 特に、大阪公立大学においては、入学者選抜や外部資金の獲得等において、年度計画を大幅に上回る実績が認められ、統合した大学の運営に取り組む中で、これらの成果が出てきていることは、高く評価するに値する。今後、教育の充実や大学の強みを活かした研究、産学官民の連携等をさらに推進し、研究成果を社会に還元することにより、公立大学としてより一層の貢献を期待する。
 また、大阪公立大学工業高等専門学校においては、社会から求められるDX教育に着実に取り組んでおり、その取組は評価できる。今後、大阪公立大学とのさらなる連携強化に取り組まれることを期待する。
 さらに、法人においては、今後も、大阪公立大学等の魅力や研究成果をより積極的に情報発信するとともに、業務の効率化及び適正化に取り組むなど、引き続き、法人運営における取組の充実・強化を期待する。

大阪公立大学 (7ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
大阪公立大学 工業高等専門学校 (9ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
大阪府立大学及び 大阪市立大学 (10ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
業務運営の改善 及び効率化 (11ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
財務内容の改善 (12ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
自己点検・評価 及び情報提供 (13ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
その他業務運営 に関する重要目標 (14ページ)	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり

<全体評価の評価結果>

「全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおり進捗している」

<全体評価にあたって考慮した事項>

① 公立大学法人大阪の基本的な目標

○ 公立大学法人大阪の目的

豊かな人間性と高い知性を備え応用力や実践力に富む優れた人材の育成と真理の探究を使命とし、広い分野の総合的な知識と高度な専門的学術を教授研究するとともに、都市を学問創造の場と捉え、社会の諸問題について英知を結集し、併せて地域・産業界との連携のもと高度な研究を推進し、その成果を社会へ還元することにより、地域社会及び国際社会の発展に寄与することを目的としている。

○ 3つの重点目標

- ・ 先端的・異分野融合型研究の推進による高度研究型大学の実現
- ・ 応用力や実践力を備えた国際力豊かな高度人材の育成
- ・ 都市問題の解決や産業競争力の強化による大阪の発展への貢献

② 令和5事業年度における特筆すべき取組

項目別評価の結果をもとに、特筆すべき取組について、次のとおり確認した。

[大阪公立大学]

- 大学における生成AIの活用をテーマとしたフォーラムなど、多岐にわたるFD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）事業に取り組んでおり、年度計画を上回って実施していると認められる。（項目4）
- ボランティアセンター新規登録学生数や杉本キャンパスの新規学生スタッフ数が目標を上回るなど、年度計画を上回って実施していると認められる。（項目7）
- 新たに5名のキャリアカウンセラーを増員し、学生の多様な事情に応じた支援を行い、その結果、個別キャリア相談件数が目標を大きく上回るなど、年度計画を大幅に上回って実施していると認められる。（項目8）
- 志願者の動向分析等を参考に、志願者数が低い地域への入試広報活動の強化等に取り組み、一般選抜（学部・学域）入試志願者数が、開学以来、2年連続で前年度を上回り、国公立大学において日本一となるなど、年度計画を大幅に上回って実施していると認め、評価Vと判断した。（項目11）
- 女性研究者支援室によるスキルアップセミナーの実施回数、女性研究者をリーダーとする共同研究への助成件数、URAによる若手研究者等への科研費申請支援件数や博士後期課程学生へのメンタリング件数が目標を大きく上回るなど、年度計画を大幅に上回って実施していると認められる。（項目12）
- 若手研究者支援として実施した創発的研究支援事業への申請支援件数や1,000万円以上の公的受託研究事業への申請支援件数の目標を大きく上回るなど、年度計画を大幅に上回って実施していると認められる。（項目14）
- 文部科学省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」に採択され、産学官民共創施設の整備を進めるとともに、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に公立大学として唯一採択されるなど、「都市シンクタンク」及び「技術インキュベーション」機能の充実に取り組んでいる。
また、感染症に強い都市づくりに貢献するため、「大阪国際感染症研究センター」を本格稼働

させ、研究力強化に向けて長崎大学との包括連携協定を締結するなど、年度計画を大幅に上回って実施していると認められる。(項目19)

[大阪公立大学工業高等専門学校]

- 数理・データサイエンス・AI教育プログラムについて、単位修得に向けた支援に取り組むことによりプログラム修得率を向上させるなど、年度計画を上回って実施していると認められる。(項目27)

[大阪府立大学及び大阪市立大学]

- 多岐にわたるFD・SD事業に取り組むなど、大阪公立大学、大阪府立大学、大阪市立大学の3大学で一体的に教職員の教育力向上に取り組んでおり、年度計画を上回って実施していると認められる。(項目36、項目39)
- 個別キャリア相談件数が目標を大きく上回るなど、大阪公立大学、大阪府立大学、大阪市立大学の3大学で一体的にキャリア支援に取り組んでおり、年度計画を大幅に上回って実施していると認め、評価Vと判断した。(項目41、項目43)

[法人]

- ICT推進室会議における審議を通じて、適正な情報システムの調達に取り組み、システム整備の全体最適化を推進するなど、年度計画を上回って実施していると認められる。(項目47)
- URAによる申請支援等の活動やマッチングイベント等の産学官連携活動により、共同研究等の獲得支援を実施し、外部資金を117億円獲得するなど、年度計画を上回って実施していると認められる。(項目51)
- メディア懇談会の開催やWEBマガジン・研究プレスリリースの発信による広報活動等が目標を上回っており、大阪公立大学について新聞、テレビ等のメディアで2,211件取り扱われるなど、年度計画を大幅に上回って実施していると認められる。(項目55)

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- 大阪公立大学において、一般選抜（学部・学域）入試の志願者数が2年連続で前年度を上回り、国公立大学において日本一となったことや、文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に公立大学として唯一採択されたことなど、6つの項目において、年度計画を大幅に上回る実績が認められ、これらの成果は、高く評価するに値する。（大阪公立大学・項目8、項目11、項目12、項目14、項目19、項目22）
- ボランティア活動の内容や学生の参加実績など、支援を通じてどのような効果があったのか、検証いただきたい。（大阪公立大学・項目7）
- 「研究力の強化」（大阪公立大学・項目12）、「大学の強みを活かした研究の推進」（大阪公立大学・項目14）について、第2期中期計画においては、各種支援による研究力強化の成果について、指標を設定するなど、評価指標について検討いただきたい。
- 附属病院において、参加希望者数の目標が達成できなかった危機対応能力育成プログラムについては、病院全体として、全診療科に対する募集の早期周知や、参加希望者に対する支援などに取組んでいただきたい。
また、研修修了者数の目標が達成できなかった特定行為研修については、今後も、やむを得ない事情により、受講者（看護師）が年度途中で研修を継続できなくなることが十分に想定されることから、本制度の目的や効果（チーム医療の推進や医師の負担軽減等）に関連した目標設定について検討いただきたい。（大阪公立大学・項目24）
- 大阪公立大学と連携した教育について、より一層進めていただきたい。（高専・項目27）
- 在校生、卒業生、企業へのアンケートを実施した結果を検証し、高専の教育の質向上に活かしていただきたい。（高専・項目29）
- 引き続き、大阪公立大学、大阪府立大学、大阪市立大学の3大学で一体的に教育の質向上や学生支援などの取組を進めていただきたい。（府大・市大）
- IRシステムを導入し収集したデータの分析・活用について、引き続き取り組んでいただきたい。（法人運営・項目46）
- 業務の効率化及び適正化の取組にあたっては、定量的な指標を設定するなど、客観的指標による評価を取り入れることなども検討いただき、効率的な運営に努めていただきたい。（法人運営・項目52）
- 広報に関する取組に関しては、新聞、テレビ等のメディアで取り扱われていることは評価できる。引き続き、広報効果を分析・検証し、大学ブランドのさらなる向上にむけて、戦略的な広報を展開されることを期待する。（法人運営・項目55）
- 「研究基盤共用センターにおける大阪公立大学研究設備マスタープラン（仮称）」の策定については、全学的な研究機器共用化の推進に向け、2024年度中に、策定及び学内周知を実施されるよう、引き続き取り組んでいただきたい。（法人運営・項目57）

3 大項目評価

3-1 「大阪公立大学」に関する大項目評価

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果では、B評価（「おおむね計画どおり」進捗している）である。
- 全体としておおむね計画どおりの進捗が認められる。
- 以上により、大項目評価としては、B評価（「おおむね計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	--------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

- 小項目は26項目であり、6項目が評価V、9項目が評価IV、10項目が評価III、1項目が評価IIに該当していることから、B評価（「おおむね計画どおり」進捗している）となる。

	V 計画を大幅 に上回って 実施してい る	IV 計画を上回 って実施し ている	III 計画を順調 に実施して いる	II 計画を十分 に実施でき ていない	I 計画を大幅 に下回って いる
大阪公立大学 に関する目標 (1)～(26)	6	9	10	1	—

<小項目評価にあたって考慮した事項>

() は小項目評価の番号

(4) 教職員の教育力の向上【IV】

大学における生成AIの活用をテーマとしたフォーラムなど、多岐にわたるFD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）事業に取り組んでおり、年度計画を上回って実施していると認められる。

(7) 課外活動支援【IV】

ボランティアセンター新規登録学生数や杉本キャンパスの新規学生スタッフ数が目標を上回るなど、年度計画を上回って実施していると認められる。

(8) キャリア支援【V】

新たに5名のキャリアカウンセラーを増員し、学生の多様な事情に応じた支援を行い、その結果、個別キャリア相談件数が目標を大きく上回るなど、年度計画を大幅に上回って実施していると認められる。

(11) 入学者選抜【V】

志願者の動向分析等を参考に、志願者数が低い地域への入試広報活動の強化等に取り組み、一般選抜（学部・学域）入試の志願者数が、開学以来、2年連続で前年度を上回り、国公立大学において日本一となるなど、年度計画を大幅に上回って実施していると認め、評価Vと

判断した。

(12) 研究力の強化【V】

女性研究者支援室によるスキルアップセミナーの実施回数、女性研究者をリーダーとする共同研究への助成件数、URAによる若手研究者等への科研費申請支援件数や博士後期課程学生へのメンタリング件数が目標を大きく上回るなど、年度計画を大幅に上回って実施していると認められる。

(14) 大学の強みを活かした研究の推進【V】

若手研究者支援として実施した創発的研究支援事業への申請支援件数や1,000万円以上の公的受託研究事業への申請支援件数が目標を大きく上回るなど、年度計画を大幅に上回って実施していると認められる。

(19) 都市シンクタンク機能・技術インキュベーション機能の整備【V】

文部科学省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」に採択され、産学官民共創施設の整備を進めるとともに、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に公立大学として唯一採択されるなど、「都市シンクタンク」及び「技術インキュベーション」機能の充実に取り組んでいる。

また、感染症に強い都市づくりに貢献するため、「大阪国際感染症研究センター」を本格稼働させ、研究力強化に向けて長崎大学との包括連携協定を締結するなど、年度計画を大幅に上回って実施していると認められる。

(24) 高度専門医療人の育成【Ⅱ】

附属病院において、危機対応能力育成プログラムの参加者数及び特定行為研修の修了者数が目標に届いておらず、年度計画を順調に実施しているとは認められないと判断した。

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- 年度計画をおおむね順調に実施していると認められる。
- 全体として、「おおむね計画どおり」の進捗が認められる中、一般選抜（学部・学域）入試の志願者数が2年連続で前年度を上回り、国公立大学において日本一となったことや、文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に公立大学として唯一採択されたことなど、6つの項目において、年度計画を大幅に上回る実績が認められ、これらの成果は、高く評価するに値する。
（項目8、項目11、項目12、項目14、項目19、項目22）
- ボランティア活動の内容や学生の参加実績など、支援を通じてどのような効果があったのか、検証いただきたい。（項目7）
- 「研究力の強化」（項目12）、「大学の強みを活かした研究の推進」（項目14）について、第2期中期計画においては、各種支援による研究力強化の成果について、指標を設定するなど、評価指標について検討いただきたい。
- 附属病院において、参加希望者数の目標が達成できなかった危機対応能力育成プログラムについては、病院全体として、全診療科に対する募集の早期周知や、参加希望者に対する支援などに取組んでいただきたい。
また、研修修了者数の目標が達成できなかった特定行為研修については、今後も、やむを得ない事情により、受講者（看護師）が年度途中で研修を継続できなくなることが十分に想定されることから、本制度の目的や効果（チーム医療の推進や医師の負担軽減等）に関連した目標設定について検討いただきたい。（項目24）

3-2 「大阪公立大学工業高等専門学校」に関する大項目評価

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果では、A評価（「計画どおり」進捗している）である。
- 全体として計画どおりの進捗が認められる。
- 以上により、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	--------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

- 小項目は7項目であり、2項目が評価Ⅳ、5項目が評価Ⅲに該当していることから、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

	V	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	I
	計画を大幅に上回って実施している	計画を上回って実施している	計画を順調に実施している	計画を十分に実施できていない	計画を大幅に下回っている
大阪公立大学工業高等専門学校に関する目標 (27)～(33)	—	2	5	—	—

<小項目評価にあたって考慮した事項>

() は小項目評価の番号

(27) 高専教育の質の向上と検証【Ⅳ】

数理・データサイエンス・AI教育プログラムについて、単位修得に向けた支援に取り組むことによりプログラム修得率を向上させるなど、年度計画を上回って実施していると認められる。

(29) 社会・産業ニーズに対応する教育と内部質保証【Ⅲ】

3ポリシー及び教育プログラム評価にあたり、在校生、卒業生及び企業に対してそれぞれアンケートを実施し、必要とされるスキルの分析やそのスキル習得にむけた取組の検証を行うなど、年度計画を順調に実施していると認められる。

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- 年度計画を順調に実施していると認められる。
- 大阪公立大学と連携した教育について、より一層進めていただきたい。(項目27)
- 在校生、卒業生、企業へのアンケートを実施した結果を検証し、高専の教育の質向上に活かしていただきたい。(項目29)

3-3 「大阪府立大学及び大阪市立大学」に関する大項目評価

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果では、A評価（「計画どおり」進捗している）である。
- 全体として計画どおりの進捗が認められる。
- 以上により、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	--------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

- 小項目は10項目であり、2項目が評価Ⅴ、2項目が評価Ⅳ、6項目が評価Ⅲに該当していることから、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

	Ⅴ 計画を大幅 に上回って 実施してい る	Ⅳ 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	Ⅰ 計画を大幅 に下回って いる
大阪府立大学及び大阪市立大学に関する目標 (34)～(43)	2	2	6	—	—

<小項目評価にあたって考慮した事項>

() は小項目評価の番号

(36) (府大) 教育の質保証等【Ⅳ】、(39) (市大) 教育の質保証等【Ⅳ】

多岐にわたるFD・SD事業に取り組むなど、大阪公立大学、大阪府立大学、大阪市立大学の3大学で一体的に教職員の教育力向上に取り組んでおり、年度計画を上回って実施していると認められる。

(40) (府大) 学生支援の充実【Ⅲ】、(42) (市大) 学生支援の充実【Ⅲ】

学生の健康診断受診率の向上やこころと健康の相談体制の整備など、大阪公立大学、大阪府立大学、大阪市立大学の3大学で一体的に学生支援の充実に取り組んでおり、年度計画を順調に実施していると認め、評価Ⅲと判断した。

(41) (府大) キャリア支援【Ⅴ】、(43) (市大) キャリア支援【Ⅴ】

個別キャリア相談件数が目標を大きく上回るなど、大阪公立大学、大阪府立大学、大阪市立大学の3大学で一体的にキャリア支援に取り組んでおり、年度計画を大幅に上回って実施していると認め、評価Ⅴと判断した。

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- 年度計画を順調に実施していると認められる。
- 引き続き、大阪公立大学、大阪府立大学、大阪市立大学の3大学で一体的に教育の質向上や学生支援などの取組を進めていただきたい。

3-4 「業務運営の改善及び効率化」に関する大項目評価

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果では、A評価（「計画どおり」進捗している）である。
- 全体として計画どおりの進捗が認められる。
- 以上により、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	--------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

- 小項目は7項目であり、1項目が評価Ⅳ、6項目が評価Ⅲに該当していることから、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

	V	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	I
	計画を大幅に上回って実施している	計画を上回って実施している	計画を順調に実施している	計画を十分に実施できていない	計画を大幅に下回っている
業務運営の改善及び効率化に関する目標（44）～（50）	—	1	6	—	—

<小項目評価にあたって考慮した事項>

（ ）は小項目評価の番号

(46) 法人運営に資するIR【Ⅲ】

IRシステムを活用し公表するデータの可視化に取り組むなど、年度計画を順調に実施していると認められる。

(47) DXの推進【Ⅳ】

ICT推進室会議における審議を通じて、適正な情報システムの調達に取り組み、システム整備の全体最適化を推進するなど、年度計画を上回って実施していると認められる。

(49) ダイバーシティの推進【Ⅲ】

ライフイベントによらず研究者が活躍できる環境の整備に向けて、研究支援員の配置や各種相談窓口による相談に取り組むなど、年度計画を順調に実施していると認められる。

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- 年度計画を順調に実施していると認められる。
- IRシステムを導入し収集したデータの分析・活用について、引き続き取り組んでいただきたい。（項目46）

3-5 「財務内容の改善」に関する大項目評価

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果では、A評価（「計画どおり」進捗している）である。
- 全体として計画どおりの進捗が認められる。
- 以上により、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	--------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

- 小項目は2項目であり、1項目が評価Ⅳ、1項目が評価Ⅲに該当していることから、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

	V 計画を大幅 に上回って 実施してい る	Ⅳ 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	I 計画を大幅 に下回って いる
財務内容の改善に関する 目標 (51)～(52)	—	1	1	—	—

<小項目評価にあたって考慮した事項>

() は小項目評価の番号

(51) 自己収入の確保【Ⅳ】

URAによる申請支援等の活動やマッチングイベント等の産学官連携活動により、共同研究等の獲得支援を実施し、外部資金を117億円獲得するなど、年度計画を上回って実施していると認められる。

(52) 業務の効率化及び適正化【Ⅲ】

所属横断型の「業務統一及び標準化・効率化プロジェクトチーム」により、統合効果の発揮にむけ、運営経費の増減や必要性分析に基づく予算配分の検討などを進め、法人としての対応方針を決定するなど、年度計画を順調に実施していると認められる。

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- 年度計画を順調に実施していると認められる。
- 業務の効率化及び適正化の取組にあたっては、定量的な指標を設定するなど、客観的指標による評価を取り入れることなども検討いただき、効率的な運営に努めていただきたい。(項目52)

3-6 「自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供」に関する大項目評価

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果では、A評価（「計画どおり」進捗している）である。
- 全体として計画どおりの進捗が認められる。
- 以上により、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	-------------------	--------------------	--------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

- 小項目は3項目であり、1項目が評価Ⅴ、1項目が評価Ⅳ、1項目が評価Ⅲに該当していることから、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

	V	IV	Ⅲ	Ⅱ	I
	計画を大幅に上回って実施している	計画を上回って実施している	計画を順調に実施している	計画を十分に実施できていない	計画を大幅に下回っている
自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標 (53)～(55)	1	1	1	—	—

<小項目評価にあたって考慮した事項>

() は小項目評価の番号

(55) 戦略的広報【Ⅴ】

メディア懇談会の開催やWEBマガジン・研究プレスリリースの発信による広報活動等が目標を上回っており、大阪公立大学について新聞、テレビ等のメディアで2,211件取り扱われるなど、年度計画を大幅に上回って実施していると認められる。

(参考) 令和5年度メディア掲載実績

新聞	テレビ	雑誌	ラジオ	その他	合計
2,009	150	20	29	3	2,211件

※「その他」にネットニュースは含まず

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- 年度計画を順調に実施していると認められる。
- 広報に関する取組に関しては、新聞、テレビ等のメディアで取り扱われていることは評価できる。引き続き、広報効果を分析・検証し、大学ブランドのさらなる向上にむけて、戦略的な広報を展開されることを期待する。(項目55)

3-7 「その他業務運営に関する重要目標」に関する大項目評価

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果では、B評価（「おおむね計画どおり」進捗している）である。
- 全体としておおむね計画どおりの進捗が認められる。
- 以上により、大項目評価としては、B評価（「おおむね計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	--------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

- 小項目は10項目であり、9項目が評価Ⅲ、1項目が評価Ⅱに該当していることから、B評価（「おおむね計画どおり」進捗している）となる。

	V 計画を大幅 に上回って 実施してい る	IV 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	I 計画を大幅 に下回って いる
その他業務運営に関する 重要目標 (56)～(65)	—	—	9	1	—

<小項目評価にあたって考慮した事項>

() は小項目評価の番号

(57) 良好な教育研究環境の維持及び有効利用【Ⅱ】

全学的な研究機器の共用化を推進するための「研究基盤共用センターにおける大阪公立大学研究設備マスタープラン（仮称）」の策定については、学内調整を進め素案を作成するなど、年度計画に基づく取組を実施されたことは認められるが、達成水準としていたマスタープランの策定には至っていないことから、年度計画を順調に実施しているとは認められないと判断した。

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- 年度計画をおおむね順調に実施していると認められる。
- 「研究基盤共用センターにおける大阪公立大学研究設備マスタープラン（仮称）」の策定については、全学的な研究機器共用化の推進に向け、2024年度中に、策定及び学内周知を実施されるよう、引き続き取り組んでいただきたい。（項目57）